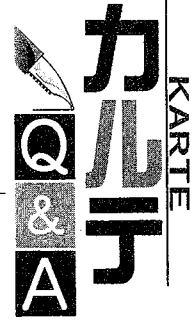


望まない妊娠を防ぐため、性行為後に用いる経口の緊急避妊薬（アフターピル）。日本では昨年から処方箋なしでの試験販売が始まりました。本格運用に向けた注意点やアフターピルの効果について、産婦人科医に聞きました。

緊急避妊薬



大門美智子医師

経口の緊急避妊薬は、レボノルゲストレル（一般名）という黄体ホルモンです。排卵を遅らせることで避妊効果を得られますが、100%避妊

に、薬局での販売方法などについて調査研究を行ってきました。昨年11月28日には、薬局での緊急避妊薬の試験販売が開始されました。性教育が行き渡っていない日本では時期尚早という意見もある中、OTC化に向けた調査研究が進んでいます。

今回の試験販売で適応がなす。今回の試験販売で適応がなす。今回の試験販売で適応がなす。

を何度も受けに来る人は、最終的に望まぬ妊娠をしてしまうことも少なくありません。内服をきっかけに、確実な避妊方法を取るようお勧めします。

72時間以内、早めに服用を

できるわけではありません。無防備な性交後、できるだけ早く、72時間以内に内服します。早ければ早いほど避妊効果は高まります。

副作用については、今回の薬はほとんどありません。しかしながら2時間以内に嘔吐した時は、もう一度内服が必要になります。また3週間後には必ず産婦人科を受診し、妊娠していないことを確認する必要があります。

一方、緊急避妊ピルの処方

青森県では1981年か